

【月案】5月・2歳児

今月の保育のポイント

- 新しい保育室や環境にも徐々に慣れてくる頃であるが、子ども達はまだ不安な要素を抱えている。子どもによって差があり、登園時に泣く子もいるので、不安な子どもにはひざの上でゆったりする時間をつくるなど寄り添いながら、落ち着いて過ごせるようにする。
- 衣服の着脱、午睡、食事、排泄を援助しながら、子どものできるところと、やりたい気持ちを充実して伸ばせるように、子どもの出来る範囲を見極め、見守って褒め、援助を行う。
- 遊びを通して子ども達同士の関わりを見守り、自分の思いを上手く表せない子どもや、友達と喧嘩になってしまう子どもに保育者が入り、好きな遊びをじっくり楽しめるようにする。

月のねらい

- 生活リズムを整えながら、好きな保育者のもとで安心して過ごす。
- 戸外で身体を存分に動かして遊び、心地よさを感じる。
- 砂や草花、生き物に触れ、季節ならではの自然に興味を持つ。
- 衣類の着脱など、簡単な身の回りのことを自分でやってみようとする。
- 言葉や行動から気持ちに寄り添い、情緒の安定を図る。
- 自分の気持ちや発見したことを簡単な言葉で伝える。
- 好きな遊びを通して友達と関わることを楽しむ。
- 音楽や歌に合わせて体を動かしたり、声を出したりすることを楽しむ。

週のねらい

その1

- 1週目:生活リズムを整え、機嫌よく過ごす(養護)
- 2週目:身の回りのことを自分でやってみようとする(養護)
- 3週目:自然に触れ、戸外で遊ぶことを楽しむ(教育)
- 4週目:保育者や友達と一緒に遊ぶことを楽しむ(教育)

その2

- 1週目:ひとりひとりの思いを受け止めて安心して過ごせるようにする(養護)
- 2週目:保育者や友達と好きな遊びを一緒に楽しむ(教育)
- 3週目:保育者や友だちに自分の思いを言葉や身振りで伝える(教育)
- 4週目:新しいクラスを安心して過ごし、生活や環境に慣れる(教育)

その3

- 1週目:保育者に思いを受け止めてもらい、安定して過ごす(養護)
- 2週目:春の自然に興味を持ち、草花や生き物を見たり触れたりする(教育)
- 3週目:自分の場所や持ち物が分かり、片付けようとする(養護)
- 4週目:音楽やリズムに合わせて体を動かすことを楽しむ(教育)

その4

- 1週目:こどもの日の行事に参加し、行事に興味を持つ(教育)
- 2週目:母の日について知り、製作することを楽しむ(教育)
- 3週目:保育者とともに遊びやごっこ遊びを楽しむ(教育)
- 4週目:一人ひとりの健康状態を把握し、健康に過ごせるようにする(養護)

前月末の子どもの姿

養護(生活)

- 新しい環境に不安を感じ、泣いて過ごす子どももいた。一定の保育者と関わることで、少しずつ安心して過ごせるようになってきている。
- 食欲旺盛で好き嫌いもなく食べ進められる子どももいるが、嫌いなものは頑なに拒む子どももいる。
- 戸外では花や生き物を見つけて指さして示したり、「はなあった」「むしいた」など簡単な言葉で伝えようとしている姿がある。
- トイレに誘われると意欲的に行き、排泄したり拭こうとする仕草も見られる子どもが多い。
- 衣類やオムツを袋や棚に出し入れしようとする子どももいるが、甘えて保育者にやってもらおうとする子どももいる。
- 新しい生活リズムに慣れず、食事中に眠くなってしまうことがある。
- 保育者が「おはよう」と挨拶すると、挨拶を返したり笑ったりする。
- 自分でズボンを履いたり、靴下や靴を履こうとする。
- オムツに排泄すると「しっこ出た」と言葉にする。
- 自分の椅子やロッカーの場所が分かり、嬉しそうにしていた。

教育(遊び)

- 知っている音楽や歌に機嫌よく反応し、曲に合わせて歌ったり身体を動かすことを楽しんでいる。
- 友達が遊んでいる玩具に興味を持ち、一緒に遊ぼうとするが貸し借りがトラブルになり上手く遊べない姿がある。
- それぞれ好きな遊びを見つけ、繰り返し楽しんでいる。
- 保育者や友達との関わりを喜び、触れ合ったり言葉のやり取りをしている。
- 戸外遊びでは、ボール遊びや砂遊び、三輪車に乗ることなどを楽しんでいる子どもが多い。
- 絵本を見たり聞いたりして、繰り返される言葉に興味を持ったり真似して言うことを楽しんでいる。
- 手型やお絵かきなどの製作を喜び、意欲的に参加していた。
- 好きな遊びがあり、「○○したい」と遊びたいことを訴える。
- 友達と行動を真似し合うことを楽しんでいる。
- 簡単な集団遊びを楽しみ、「やりたい」と言葉にする。
- 草花や生き物の絵本や図鑑を見ることを楽しんでいる。
- 保育者と簡単なやりとりをしながらまごとをすることを喜ぶ。
- 「いいよ」「だめだよ」「嫌だ」等、自分の気持ちを言葉で伝える。
- 保育者の質問に対し、名前やクラス名、年齢等を答える。

活動内容(五領域対応)／環境構成と援助

養護(生活)

- 活:ズボンやパンツ(オムツ)、靴の着脱など身の回りのことを、自分でやってみようとする。(健康)
環:衣類の着脱が器用に行える子どももいれば、ズボンの向きなどが分からない子どももいる。全て手伝うのではなく意欲を認め、ズボンの向きを整えるなどのちょっとした手伝いを行うよう心がける。
- 活:朝の挨拶や食事の挨拶、「ありがとう」「ごめんなさい」の言葉を知る。(言葉)
環:丁寧に子ども達の要求や、子ども同士の仲立ちをし、言葉の大切さを体験させていく。同時に「ありがとう」等挨拶を習慣化できるように保育者が日々実践していく。
- 活:保育者に気持ちを受け止めてもらい、安心して気持ちを表す。(健康・人間関係)
環:子どもが泣いたり嫌がったりしている時には気持ちをしっかりと受け止め、受け止めてもらう心地よさが味わえるように声をかけていく。
- 活:嫌いな食べ物にも興味を持ち、少しでも食べてみようとする。(健康)
環:食事の際には一定時間座っていられるように声をかけ、また時間が長くなりすぎないようにする。また、楽しい雰囲気の中で食事を進められるよう、子どもに話しかけたり「美味しいね」など声かけの工夫をする。
- 活:保育者と一緒に、手洗いやうがいを嫌がらずに行う。(健康)
環:手洗いやうがい一人では上手くできないことも多い。袖をまくることを伝えたり一緒に洗ってみたりすることで、手洗いやうがいのやり方が一つひとつ分かるように説明する。
- 活:安心して午睡し、心地よく目覚める。(健康)
環:睡眠時間や寝られるタイミングなどには個人差があるため、一人ひとりの様子を見ながらゆったりとした雰囲気の中で安心して眠れるような環境を作る。
- 活:保育者の言葉を理解し、行動に移そうとする。(人間関係・言葉)
環:「～してから遊びに行こうね」と、常に先が見通せる声掛けを行う。子どもが理解しやすいよう、はっきりと、ゆっくりと話し、子どもの気持ちも聞きながら言葉での理解の楽しさを味わえるようにする。
- 活:歯の存在を気にしながら歯磨きを行う。(健康)
環:子どもが今この歯を磨かれているか分かるように鏡の前で一緒に行い、「きれいになって気持ちいいね」と声をかけながら進めていく。
- 活:保育者と一緒にトイレに行き、排泄を行う。(健康)
環:食前の前に行く等、排尿間隔の妨げにならない範囲で定期的に決まった時間にトイレに誘い、トイレに座る習慣を確立していく。トレーニングパンツへ移行の子は本人の気持ちを尊重し、移行を急がないようにする。
- 活:生活リズムが分かり、安定して過ごす。(健康)
環:日々の生活リズムを崩さず、イラストで生活の流れを示しておいたり、分かりやすい言葉でその都度知らせる。1日の生活に見通しを持ち、安心して過ごせるようにする。
- 活:自分や友達の持ち物が分かり、言葉にする。(健康・環境・言葉)
環:自分の物を出し入れする姿や友達の物に気付いて言葉にする姿を大いに認めながら、自分の物や友達の物の認識に繋がったり、自分の物を管理しようとする気持ちを育てていく。
- 活:排泄の感覚が分かり、保育者に知らせる。(健康)
環:「おしっこ出たね。教えてくれてありがとう」と言葉かけし、一緒にオムツ交換をする。又、排尿感覚を把握して少しずつトイレに誘ったり、トイレに座る経験ができるよう無理なく関わる。
- 活:身の回りの物の名前や何に使う物かが分かり始める。(環境)
環:「～するための○○だよ」と保育者が丁寧に知らせることで身の回りの物に対する興味や理解に繋がっていく。
- 活:保育者と一緒に簡単な交通ルールを守って歩く。(健康・環境)
環:散歩をする中で「ここでは手を挙げるよ」「右見て、左見て、右見るよ」とその都度言葉かけしながら、交通ルールを知らせていく。

- 活:野菜の苗を植え、野菜に対する興味関心が高まる。(環境)
環:ピーマンやトマト等、食事で食べることが多い野菜の苗を植え、生長を知らせて観察していくことで興味や関心に繋げる。
- 活:保育者と一緒に衣服交換をしたり水分補給をして心地よく過ごす(健康)
環:「暑いから着替えようね」「たくさん遊んだからお水飲もう」と言葉かけしながら、健康に過ごせるよう関わる。
- 活:手洗いやトイレ、玩具等の順番を待とうとする。(健康・人間関係)
環:手洗いやトイレの待つ場所に印を付けておき、順番を意識出来るようにする。又、遊びの中で「○○ちゃんの次だね」「待っててくれてありがとう」と声をかけて順番を待とうとする気持ちや社会性の育ちに繋げる。
- 活:母の日について知る。(環境)
環:母の日について分かりやすく知らせ、保護者に対して「いつもありがとう」「大好き」という気持ちで製作できるよう関わる。

教育(遊び)

- 活:保育者や友達と一緒に遊ぶことを楽しむ。(人間関係)
環:子どもが好んでいる遊びと一緒に楽しみ、関わって遊ぶ楽しさが感じられるように援助していく。
- 活:自分の気持ちを態度や簡単な言葉で表現し、伝えようとする。(言葉・表現)
環:子ども同士でトラブルの際には、「どうぞ」「ごめんね」「いいよ」などその時々で適切な言葉を代弁していく。使う場面や言葉を子どもが知ることができるよう、繰り返し伝えるようにする。
- 活:手型やシール貼りなど、こいのぼりの製作を楽しむ。(表現)
環:絵の具を使って手型の製作を行う際には、行う順番を決めたり新聞紙を敷いたりして環境を整え、子どもが楽しさを存分に味わえるように工夫する。
- 活:戸外で自然に触れ、生き物や植物に興味を持つ。(環境)
環:戸外遊びの際には「ダンゴムシがいるよ」「これはありだね」「チューリップが咲いてるよ」など保育者が具体的に声をかけ、子どもが自然に興味を持てるようにしていく。
- 活:繰り返しの絵本や紙芝居などを楽しみ、真似して言うようとする。(表現・言葉)
環:数冊絵本や紙芝居を出して子ども達に選んでもらったり、口に出して楽しめる言葉遊びの絵本を選ぶなど、子ども達の興味や好奇心をくすぐる。
- 活:運動遊びや戸外遊びを通して、身体を動かして遊ぶことを楽しむ。(健康)
環:子どもが馴染みやすい歌やリズム遊びを準備し、日々繰り返し行うことで存分に楽しめるようにする。
- 活:手指を使っの製作活動を触感や視覚で十分楽しむ。(表現)
環:指を使って絵具で描いたり、葉っぱを破ってくっつけるなど、指先を使った製作活動を積極的に取り入れる。保育者は子どもの動きに合わせて「ビリビリだね」「さらさらだ」等、触感を擬態語で表現し、子どもがその感覚を意識できるようにする。
- 活:ダンゴムシやメダカ等、身近な生物に継続的に関わり、生き物への興味、愛着をもつ。(環境)
環:いつも生き物がいる場所へ行き、関わる機会を多くもつ。ダンゴムシなど飼育が容易な生物は保育室で飼育し、いつでも子どもが様子を見られるようにする。
- 活:音を鳴らして触れ、音の違いや音量を比較しながら楽しむ。(言葉・表現)
環:身の回りにあるものを叩いてみて音の違いを楽しめるように、ダンボールや一斗缶など、意図的に様々な音の出る物を用意する。強弱や叩く場所で音が変わることを保育者がやってみせ、子どもの力の調節や気づきにつなげる。人は叩かないことや独り占めしないことなどのルールも重ねて伝える。
- 活:保育者と言葉のやりとりを楽しむ。(言葉・人間関係)
環:簡単な質問をし、返答に対して更に質問をしていく。言葉に共感したり言葉を補っていくことでやりとりの楽しさや語彙の増加に繋げる。

- 活: 友達の名前を呼んだり、手を繋いだりしながら関わる心地よさを感じる。(人間関係)
環: 「おてて繋いで仲良しだね」「一緒に遊ぶの楽しいね」と友達と関わる嬉しさに共感する。手を強く引っ張っていないか、力が強くないか確認しながら必要に応じて言葉かけをする。
- 活: ブロックや粘土で好きな形を作ろうとする。(環境・表現)
環: 自分なりに形を作っていく姿を見守り、大いに認めて喜びに繋げたり創造力を育てていく。
- 活: 音楽に合わせて体や声で表現することを楽しむ。(表現)
環: 保育者が楽しそうに踊ったりうたう姿を示し、表現する意欲や楽しさに繋げていく。
- 活: 「貸して」「いいよ」等の言葉を使ってやりとりしようとする。(人間関係)
環: 友達の返答を待たずに「かして」と玩具を取ってしまうことがあるため、友達の様子を知らせ、気持ちを代弁していくことで、少しずつ友達の気持ちに気付けるよう関わる。
- 活: 砂や水、粘土等の感触を味わいながら遊ぶことを楽しむ。(環境)
環: 砂に水を加えていき、感触や色等が変わる様子に気付けるよう働きかける。感触を味わいながら遊ぶ様子を見守り、想像力や感覚を育てていく。
- 活: 玩具を身近な物に見立てたり、簡単なごっこ遊びをすることを楽しむ。(人間関係・表現・言葉)
環: 動物ごっこや乗り物ごっこ、ままごと等イメージしやすいごっこ遊びを提案しながら、表現力やコミュニケーション能力に繋げていく。
- 活: 絵本や図鑑、製作、歌等を通して春の自然を感じる。(環境)
環: 季節に合った絵本や歌を用意しておく。気付きや感じたことを受け止めて喜びに繋げたり、実物と結び付けながら自然に対する関心を深められるよう関わる。
- 活: 異年齢児が遊ぶ様子に興味を持つ。(人間関係)
環: 0歳児の姿を見て優しくしようとする姿を大いに認めて、思いやる気持ちに繋げる。又、年上の子の遊びに対する興味を受け止めて同じ遊びができるよう援助したり、異年齢児の遊びに加われるよう仲立ちをしていく。

健康、安全面で配慮すべき事項

- 戸外や室内につまずきやすい箇所がないかなど、改めて確認する。
- 気温差や活動内容によって体温調節が難しい季節。汗をかいていないかなど細かな変化を気にかかけ、必要に応じて衣類の着脱などが行えるように保育者同士連携をとる。
- 連休明けには生活リズムが崩れ、情緒が安定しない子どもがいる。普段の様子をよく見ておき、子どもが無理しすぎないように生活の流れを工夫していく。
- 自分で靴を履けるようになる子も出てくるため、マジックテープがしっかりと付いているか確認する。
- 衛生面や安全面を考慮し、爪の長さを定期的を確認する。
- 固定遊具の安全点検や散歩ルート of 安全確認を行う。

今月の製作・歌・絵本・手遊び・室内室外遊び

製作

- 手形でカーネーション／はるいろ風車／変化が楽しいこいのぼり製作

歌

- ありさんのおはなし／てんとうむしのたび／こいのぼり

絵本

- やさい だいすき／どこで おひるね しょうかな／パンツの はきかた

手遊び

- ちょちちょあわわ／つくしんぼ／おべんとうばこのうた

室内室外遊び

- ダンボールに乗ってくぐって被って／サーキット遊び／シャボン玉を追いかけて

行事

- 憲法記念日(5月3日)
- みどりの日(5月4日)
- こどもの日(5月5日)
- 愛鳥週間(5月10日～16日)
- 母の日(5月第2日曜日)
- 身体測定
- 健康診断
- 避難訓練
- 誕生日会
- クラス懇親会

食育

- 一人ひとりの月齢に合わせて食事を進める。
- 保育者に話しかけられながら楽しい雰囲気の中で、一定時間座って食事をしようとする。
- 食事の開始には「いただきます」、終わりには「ごちそうさま」の挨拶があることを知る。
- スプーンを使って自分で食べることを楽しむ。
- 食材に興味を持ち、名前を言葉にする。
- 食後は手や口を拭こうとし、保育者に仕上げをしてもらう。

異年齢保育

- 年上の友だちに影響を受けて食具の持ち方を意識する姿を認め、自信につなげる。
- 年下の友だちとの玩具の取り合いでは、ケガを防ぎつつ、言葉で思いを伝える援助を行う。
- 散歩で年上の友だちと手をつなぐ際は、互いにペースを合わせて歩けるように声かけしながら見守る。
- 年上の友だちとの集団ゲームでは、必要に応じて側に付き、楽しく参加できるよう援助する。
- 年上の友だちが楽しむごっこあそびへの興味に寄り添い、遊びに加われるように仲立ちする。

職員間の連携

- 徐々に生活に慣れてきたので、個々に合った関わり方や生活面での援助を再確認する。
- 体調を崩しやすい時期なので、活動内容を柔軟に変更できるよう事前に打ち合わせし、準備を行う。
- 泣いて登園する子への対応を話し合って共有し、園全体で見守りながら安心感を育んでいく。

- 懇談会に向けて、4月からの活動の様子や個々の成長について担任間で話し合う時間を設ける。
- 泥遊び前後の準備や着替えをスムーズに行えるように、職員の役割分担や流れを確認する。

地域と家庭との連携

- 天候や活動内容によって体温が変わりやすいため、着脱しやすい服装をお願いする。
- 戸外での遊びも活発になる時期なので、着替えや動きやすい服装を準備してもらう。
- 個人面談やクラス懇親会への参加を呼びかけ、協力してもらえるようにする。
- 連休中の家庭での様子を丁寧に聞き取り、園での様子を具体的に伝えていく。
- 日常の様子を動画や写真に収めておき、クラス懇親会で見てもらうことで安心感に繋げる。
- 地域の方が心地よく過ごせるよう、園周辺の環境整備を行う。

長時間保育の配慮

- 個々の甘えを受け止め、ふれあいあそびや会話を楽しみながら、安心して過ごせるように関わる。
- 不安で泣く姿に寄り添いつつ、気分を切り替えやすいように手遊びやわらべうたあそびに誘う。
- こまめな水分補給や、室温に応じた衣服の調整を促し、快適に過ごせるように援助する。
- 普段は関わる機会の少ない友だちとのやり取りを見守り、必要に応じて仲立ちする。
- クラスにはない新しい玩具への興味に寄り添い、一緒に遊びながらやり取りを楽しむ。

自己評価

- 生活リズムを整えながら、安定して過ごすことができたか。
- 保育者に気持ちを受け止めてもらい、のびのびと気持ちを表現できていたか。
- 食事の際には嫌いなものも挑戦してみようとする姿が見られたか。
- 朝の挨拶や食事の挨拶など、場面に応じて保育者の真似をしながら行えているか。
- 保育者や友達と関わって遊ぶことを楽しめたか。
- 草花や生き物などの自然に触れ、興味を持つことができたか。
- 連休明けの疲れを考慮し、無理なく過ごせるようにしたか。
- 安心して自分の気持ちを表現できる雰囲気作りをしたか。
- 好きな遊びを楽しんでいたか。
- 歌や踊り、製作等様々な方法で自分を表現することが出来たか。
- 自分で食事をする楽しさを感じられていたか。
- 保護者に対し生活の様子を具体的に伝えて安心感に繋がったか。

ほいくのおまもり Plus!

文例ご利用時の注意事項

- 提供される文例は、一般的なケースを想定して作成されています。ご自身の具体的な状況やニーズに合わせて適宜修正を加えてご利用ください。
- 文例の利用によって生じたいかなる結果についても、当サービスは責任を負いかねます。自己責任においてご使用ください。
- 文例は参考としてのみご利用いただき、直接のコピー&ペーストではなく、ご自身の言葉で表現を加えることをお勧めします。
- 法的な文書や重要な契約に関する文面は、専門家のアドバイスを受けて作成することをお勧めします。
- 文例の著作権は当サービスに帰属しています。無断での再配布や商用利用はご遠慮ください。

ほいくのおまもりプラス・トップページ

